

海賊対処行動の第46次派遣部隊がソマリア・アデン湾に向け出航

～ 第46次派遣海賊対処行動水上部隊 出国行事の様相 ～

ソマリア沖・アデン湾における海賊対処行動のための第46次派遣海賊対処行動水上部隊の出国行事が9月27日に開催され、3度目の海賊対処行動に赴く護衛艦「あけぼの」が長崎県（佐世保）から出航した。

外川久人艦長が指揮を執る「あけぼの」には、ソマリア周辺海域派遣捜査隊を編成する海上保安官8名を含め、約200名が乗り組み、現在活動中の第45次隊の護衛艦「いかづち」と交代する。

なお、同艦は中東地域における情報収集活動も兼務することとしている。

式典では川村伸一自衛艦隊司令部幕僚長が、齊藤聡自衛艦隊司令官の訓辞を代読し「これまで4000隻以上の船舶を護衛し、国内外から高い評価を受けてきた。豊かな海を護るという意義を考え、任務にかけてきたこれまでの部隊の想いを引き継いで貰いたい。万全の備えを以て任務を遂行し、総員が無事で帰国することを望む。」と述べた。

また、渡邊保範海上保安監は、「年間1800隻の日本関係船舶、20000隻の船舶が航行するアデン湾での海賊対処行動では、国内は勿論、国外からも高い評価を受けている。自衛隊と海上保安庁が総力を挙げて取り組んだ賜物であり、引き続き諸君が最高のパフォーマンスを発揮すると信じている。」と挨拶を述べた。

当艦乗員を統べる外川艦長が、「出港準備が整いました。任務を遂行致します。」と宣言し、全乗員が「あけぼの」に乗艦した。

当協会を代表して、川崎汽船 綾清隆専務執行役員が「ご安航をお祈りします。皆さんが任務を終え、無事帰国されることを祈念致します。」と、任務に赴く乗員に想いを伝えた。

当協会からは、川崎汽船 綾専務執行役員、日本郵船 樋口久也常務執行役員、商船三井 谷本光央常務執行役員ほか1名が、国際船員労務協会からは、池田良一 事務局長ほか1名が出席した。

出席者一同は快晴の岸壁から、登舷礼で日本を離れる「あけぼの」の安全航海と乗員の無事を祈りつつ、見送った。

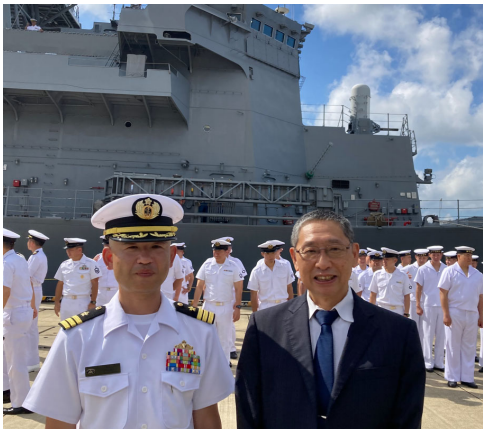
出国行事



訓辞を代読する川村自衛艦隊司令部幕僚長



挨拶する渡邊海上保安監



外川艦長と綾専務執行役員



協会代表挨拶を行う綾専務執行役員



登舷礼で佐世保を離れる「あけぼの」



出港を見送る両協会出席者